



## 愛とつくしみのあるところ、神はそこにおられる

ジャン・ペンケレシ神父

住吉教会の月報10月号で、神は愛そのものであることと、神を愛することは人間の唯一の幸せであることを話しました。人は神の姿に似せて造られたのですから、私たちも本質上は、愛する者です。神の愛に答えて神を愛すると、聖アウグスティヌスが言うように、初めて安らぎを得、幸せを味わいます。不幸にして人は最初に神の愛に背いたので、愛することは難しくなっています。神を愛することは神の国の第一の法則です。

第二の法則は、「隣人を自分のように愛しなさい。」(マルコ 12:31) ということです。人は、神に似せて造られたのですから、神が愛するものを、すべて自然に愛するはずで、しかしアダムの罪の結果、人を愛することはほとんど出来なくなりました。イエスは、良き医者として、人をそこから救い出すために、薬を示してくださいました。

「わたしの言葉を聞いているあなたがたに言う。敵を愛し、あなたがたを憎む者に親切にいなさい。悪口を言う者に祝福を祈り、あなたがたを侮辱する者のために祈りなさい。(ルカ 6:28)

イエスは、その言葉を聞いている人に話しておられます。信者である私たち皆に。私を愛さない人、憎む人を憎まないで、責めないで、心に受け入れて大事にして、親切にいなさい、とイエスは ”命じる” のです。普通は反対の態度ですが。悪口を言う者、侮辱する者のために祝福(神の恵み)を祈ることも ”命じて” おられます。神はその人々を愛して生かしておられるから、神と同じようにするほかありません。苦い薬かもしれませぬ。

それが出来るためにイエスの薬を服用する必要があります。「私について来たい者は、自分を捨て、自分の十字架を背負って、わたしに従いなさい。」(マタイ 16:24) 永遠の命に入る日までイエスについて行く条件です。自分の我、好き嫌い、プライドに従わず、悪い自分を捨て、十字架上で自分を苦しめる者を赦したイエスのように。この地上で思いのままに生きるか、永遠に続く命を選ぶか、どちらかです。もっとも大事な選択です。

しかし決断だけでは、それが到底できません。聖霊の助けが必要です。洗礼のとき聖霊は私たちの内に父の愛を注がれました。神を ”アッバ” お父さん、と親しく言うようになりました。(ローマ 5:5 ; 8:15) そして、父の愛で人々をも愛する心を与えられました。それを忘れてはなりません。《次ページへ続く》

《前頁から続く》「キリストに結ばれる人はだれでも、新しく創造された者なので  
す。古いものは過ぎ去り、新しい者が生じた。」(2コリント5:17) 聖霊によって  
新しい被造物になったのですから、新しい人として生きましょう！

(信仰の基礎的なことですから、数回でも注意深く読んで自分のものにしてください。)

## 年末援助金の報告

2018年も小教区評議会(11月18日開催)の議決により、下記のとおり  
年末援助金を送金しましたので報告致します。(社会活動チーム、財務チーム)

NPO ノア (東条湖の家)  
エマウス友の会(神戸)  
大阪マック  
カトリック社会活動神戸センター  
釜ヶ崎キリスト教協友会  
KBH(神戸バプテスマ)友の会  
こどもの里  
コムニタス  
シナピス (こども基金)  
旅路の里  
出会いの家  
日本カトリック障害者連絡協議会  
ふるさとの家  
園田トモミチ (ドメインサーバー)

## 北海道震災復興支援金

2018年11月11日に行ったバザーの収益金の一部をを北海道地震による災  
害復興支援金としてカリタスジャパンに送金しましたのでご報告致します。

バザー実行委員会 会計

## 「世界こども助け合いの日」を迎えて

毎年、1月の最終日曜日（2019年は1月27日）は、「世界こども助け合いの日」と定められています。多くの皆さまのご理解とご協力をいただき、カトリック教会のみならず、カトリック系の学校、幼稚園、保育園の生徒や児童の皆さん、保護者の方々からも温かいご支援をいただいておりますことを、心から感謝申し上げます。

教皇庁宣教授助事業・児童福祉会は、1843年にフランスの司教シャルル・ドウ・フォルビン・ジャンソン（Monsignor Charles de Forbin-Janson）によってはじめられました。日々の短い祈り（一日一度のアヴェ・マリアの祈り）と毎月の小さな犠牲によって「子どもたちが子どもたちを助ける」（children help children）をモットーにはじめられた運動です。当時の人々にとって子どもたちを単なる受け手ではなく主人公に置くという発想は、画期的なアイデアでした。フランスではじまったこの運動は、ベルギー、スペイン、イタリアとヨーロッパ各国に広がり、1950年12月4日に教皇ピオ12世が「世界こども助け合いの日」を設立されました。

「世界こども助け合いの日」は、祈りと犠牲、シェアリングをとおして、自分たちとは異なる環境に置かれた世界中の子どもに対する関心を子どもたちのなかに涵養することを目指しています。現在、児童福祉会の活動は150を超える国に広がり、2018年に創立175周年を迎えました。

ユネスコによれば、自然災害や局地紛争が続く今日の世界のなかで、学校に行けない子どもが約6,100万人、文字の読み書きができない人が7億5,000万人いると伝えられています（世界の15歳以上の6人に一人）。他国や国内の別の地域で、厳しい環境のもと生きる子どものために祈り活動することは、わたしたちの現代世界に分裂ではなく、一致と連帯の精神を育くみ、強く優しい子どもの心を育てることにつながると信じています。

昨年、皆さまから「世界こども助け合いの日」に寄せられた献金から、2018年は、インド、ザンビア、タンザニア、エチオピアに総額19,640,707円を送金させていただきました。

すべての子どもが互いに助け合う世界が広がり、明日への希望をもって生きることができるよう、皆さまのお祈りとご支援を今年もよろしくお願いいたします。

2018年10月10日  
教皇庁宣教授助事業・児童福祉会  
日本事務担当 門間 直輝